

アメリカの大学経営大学院・修士課程 プログラムの特色

東京女子大学 教育研究支援課
桜美林大学大学院 博士後期課程

深野 政之

はじめに

多種多様な大学が存在するアメリカでは、古くから大学ランキングが行なわれてきた。中でも有名なのがU. S. News & Report誌の“America's Best Colleges”で、分野別に「学術面の水準」、「入学の難易度」、「学生の満足度」等を詳細に調査して掲載している。その大学院版が“America's Best Graduate Schools”であり、その2007年版の主要な分野別ランキングがインターネット版(有料)に掲載されている。

ここでは、そのインターネット版(<http://www.usnews.com/>)に掲載された大学院ランキングのうち、Higher Education Administration分野のベスト16大学を取り上げ、これらの大学院のホームページ等にあたり、プログラムの特色を整理してみることにする。なお、ベスト16大学のうち、9位のスタンフォード大学は博士課程のみで修士課程がないので除外した。

表1は、基本的に修士課程のプログラムを対象にしたものであり、入手したコース・カタログ(授業の一覧表)からそれぞれの授業を「理論・歴史・社会」「研究法」「運営・経営・法律」「教育・入試・学生」「インターンシップ」「その他」の6つに分類し、授業数を比較しようと試みたものである。無論、6つの分類には分けられない授業もあり、それらはなるべく授業内容一覧(コース・ディスクリプション)にあたり、授業科目数を集計したものである。ある分野の授業数が“0”の場

合でも、その分野の授業が全く無いわけではなく、他の授業で補われていることもあるので、あくまでも傾向として捉えていただきたい。

1 アメリカの大学経営大学院のプログラム

表1からまず読み取れるのは、「理論・歴史・社会」の比重が高いペンシルバニア州立大学とメリーランド大を除き、多くの大学院が「運営・経営・法律」や「教育・入試・学生」等、実務・実践的な授業科目に重点を置いている点である。

アメリカの大学経営大学院は、1960年代に始まる大学経営専門職の登場と軌を同じくして始まり、30~40年ほどの歴史がある⁽¹⁾。とはいえ長い歴史のある医学、法学や理工系の大学院のようなカリキュラムのスタンダードがあるわけでもなく、専門職団体によるア krediteーションが行なわれているわけでもない。この分野の専門職団体もHigher Education Administrationの統一団体があるわけではなく、教務・入試部門(AACROなど)、学生支援部門(ACPAなど)、IR部門(AIR)など部門別に専門職団体がある。大学経営大学院に学ぶ大学院生は、これらの専門職団体に属している現職の大学職員である場合が多く、各自のライフプランに合わせて専門的知識を学んでいる。

大学経営(Higher Education Administration)という分野は教育大学院(Graduate School of Education)の一分野として置かれている場合が

(表1)

2007 順位	大学名	理論・ 歴史・ 社会	研究法	運営・ 経営・ 法律	教育・ 入試・ 学生	インター ンシップ	その他	合計	学生数
1	Univ. of Michigan	4	7	10	9	1	4	35	122
2	Pennsylvania State Univ.	10	3	8	6	1	2	30	15
3	UCLA	3	2	2	2	0	4	13	100
4	Michigan State Univ.	3	1	5	6	0	2	17	149
5	Univ. of Southern California	1	0	8	10	1	3	23	96
6	Univ. of Maryland	11	2	8	2	0	2	25	81
7	Univ. of Georgia	6	3	5	3	1	3	21	44
7	Indiana University	4	1	6	13	3	7	34	160
10	Vanderbilt University	3	4	8	2	0	1	18	88
11	Harvard University	3	2	8	7	2	3	25	54
12	Univ. of Arizona	6	3	2	5	0	0	16	103
13	Univ. of Iowa	3	5	7	1	0	0	16	59
13	Columbia Univ.	5	2	13	20	0	18	58	261
13	Ohio State Univ.	5	6	5	16	0	0	32	123
13	Florida State Univ.	7	4	8	0	2	1	22	108

多く、職業に直結した専門職を養成するプロフェッショナル・スクールの性格を強く持っている。しかし、アメリカの教育大学院⁽²⁾は、アカデミックなプログラムを有している場合も少なくない。その場合は、博士課程(Ph. dコース)プログラムが充実している。したがって、同じ大学経営大学院プログラムといっても、表1に見られるように、ペンシルバニア州立大学⁽³⁾とメリーランド大学⁽⁴⁾の授業内容(コース・ディスクリプション)は学術的なプログラムに比重がかかっており、その他の大学院は、実務・実践的プログラムを特色としていると言える。

2 アメリカと日本の大学院プログラム比較

このようなアメリカの大学院プログラムと日本のプログラムを比較すると、どのような特色

が読み取れるであろうか。日本の大学から、広島大学、名古屋大学、桜美林大学、東京大学(以上、設置年順)の高等教育分野、大学経営分野の大学院に関するデータを表2にまとめてみた。ただし日本の大学院プログラムはまだ大学院数も少なく、最も歴史のある広島大学でも1986年からに過ぎず、大学経営職員養成を標榜する桜美林大学は2001年発足である。東京大学は、発足2年目の新しい大学院コースである。

表1と表2を見比べるとわかる通り、アメリカの大学院と日本の大学院との間に、プログラム上の明瞭な差異はない。しかし、両者の授業内容に細かくあたってみると、いくつかの特色が見えてくる。

1つには、日本の高等教育分野、大学経営分野の大学院プログラムは日本独自の特色があるわけではなく、アメリカの大学院プログラムとほ

(表2)

開設年	大学名	理論・ 歴史・ 社会	研究法	運営・ 経営・ 法律	教育・ 入試・ 学生	インター ンシップ	その他	合計	学生数
1986	広島大学	7	2	3	3	0	7	22	7
2000	名古屋大学	4	0	6	5	0	3	18	7
2001	桜美林大学(通学制)	10	1	11	12	0	1	35	33
2005	東京大学	5	2	2	0	0	2	11	28

ほぼ同じ構成をなしていることがわかる。ただし概して「理論・歴史・社会」の比率が高く、授業内容一覧を見る限りにおいては、実務的というよりは学術的な色彩が濃い。

二つ目の特色として、アメリカのコース・カタログには“Higher Education in American Society”という授業が多く見られ、さらにその授業内容を見ると授業科目名と同名のテキスト⁽⁶⁾が使用されていることである。このテキストは日本でも翻訳出版⁽⁶⁾されている。アメリカでは、この科目が大学院プログラムには必須(コア科目)となっており、日本でも『日本社会と高等教育』といった内容の共通テキストを作成することが望まれる。

三つ目の特色として、もう一つ、アメリカのコース・カタログに多く見られる“Research Design”や“Quantitative Research Methods”といった研究法の授業が、日本では少ないことである。これは日本の一般的な文科系の大学院にも当てはまると思われるが、日本では大学院の授業に研究法を入れるのには抵抗があるということであろうか。学術的な高等教育研究であろうと、大学経営の実務家養成のためのプログラムであろうと、この分野の研究には特に調査法や数量分析についての知識・技量が必須である。研究法の授業の数を増やすとともに、日本の大学院では、この分野の研究法を教授できる教員を増やすことも課題となるであろう。

3 日本の大学院プログラムへの示唆

筆者は2001年に桜美林大学が大学アドミニストレーション専攻を発足させた際の1期生である。発足当時のカリキュラムは大学の制度や理念に関する授業が多く、実務・実践的な授業が少ないという批判が受講生から上がっていた。しかし数年経った後に修了生同士で話をしてみると、個々の業務に関する授業よりも、高等教育の位置づけや歴史についての専門的知識の方が役に立ったという声が多く出される。

学生支援や入試、財務等の個々の業務に関する専門知識を修得するには、大学院の週1回の授業で他の受講生と一緒に学ぶというのではとても足りない。個々の業務を対象とした実務・実践志向の授業であっても、授業では業務の大まかな紹介と現在のトピック、せいぜい業務に対する心構えを提示するにとどまるのは仕方ないことである。当該業務の現役担当者が業務分析をしたり、業務経験者が最新の研究成果を取り入れたりといった、現職者が大学院に入学した第一目標・最大目的を実現するには、成果報告や論文作成につながる実践的な個別研究が必要となる。

様々な大学から様々な職務経歴を持ち、様々な興味・関心を持って大学院で学ぶ現職の大学院生に有効なプログラムとは、どのようなものになるのだろうか。

今回の調査では通信制課程のプログラムを対

象外としたが、いくつかのアメリカの通信制大学院のプログラム⁽⁷⁾を見たところでは、ほぼ全ての科目が実務・実践的なものであった。

アメリカの大学院においても、プログラム構成においては、学術的な科目中心のプログラムと実務・実践的な科目に比重を置いたプログラムの間で揺れていると言われている⁽⁸⁾が、日本の大学院においても学術的な高等教育研究と大学経営の実務家養成のためのプログラムとの間で、何をコアとして、どのようなプログラムが求められるかを大いに議論し、当分の間、試行錯誤をしていくことが必要であろう。 **e**

- (1)山田礼子「ホームページに世界の大学戦略を見る」『カレッジマネジメント』(2003~2006)
- (2)小川佳万「学位から見たアメリカ教育大学院」『名古屋高等教育研究』2号(2002)
- (3)<http://www.ed.psu.edu/hied/>
- (4)<http://www.education.umd.edu/EDPA/areas/highered.html>
- (5)アルトバック他編「Higher Education in American Society」(1994、第3版)
- (6)高橋靖直訳『アメリカ社会と高等教育』玉川大学出版部(1998)
- (7)この分野の通信制大学院ではフィラデルフィアに本部のあるDrexel大学が有名。
(http://www.drexel.com/Fields_of_Study/education/MSHE/)
- (8)小川佳万 前掲論文(2002)

著者紹介：

◆深野 政之 (FUKANO, Masayuki)

1987年早稲田大学卒業。東京女子大学に就職。現在、教育研究支援課勤務。

2001年桜美林大学大学院 大学アドミニストレーション専攻入学、2003年修了。同年桜美林大学大学院博士後期課程入学、現在に至る。

論文に「ハーバードのカリキュラム改革」(大学教育学会誌, 2005)、「新制大学発足期における一般教育実施体制に関する一考察」(桜美林大学大学院論集, 2004)等がある。

<http://www.k5.dion.ne.jp/~fukano/>

News Track

(8月11日)

■山形大学: 予定価格160万円以上500万円未満の物品購入等に新たに「見積競争方式」を導入

<http://www.yamagata-u.ac.jp/topics/1807/g20060728b.html>

(8月11日)

■九州工業大学: 「九州工業大学科学者行動規範」を策定

<http://www.kyutech.ac.jp/top/standard/index.html>

(8月10日)

■山形大学: 山形大学元気プロジェクトに5件の採用を決定

http://www.yamagata-u.ac.jp/html/info/18genki/genki_project.html

(8月10日)

■岡山大学: 岡山大学同窓会設立総会等を開催

<http://www.okayama-u.ac.jp/jp/topic/topic180810.html>

(8月9日)

■東京農工大学: メールマガジンを創刊

<http://www.tuat.ac.jp/social/mail/index.html>

(8月4日)

■文部科学省: 平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」の選定状況について

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/08/06073108.htm

(8月4日)

■山形大学: 新任管理職員研修を開催

<http://www.yamagata-u.ac.jp/topics/1807/g20060728b.html>

(8月3日)

■文部科学省: 平成18年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」の選定結果について

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/08/06080409.htm

(8月3日)

■山形大学: 「『山形大学山澤進奨学金』及び『山形大